

バック・エックスがセミナー 「1on1ミーティング」で離職防止



企業理念を核とした組織作りで業界に名をはせたフェイス総研の元社長でもある小倉社長が、業界に特化した人材採用の大手バック・エックスとタッグを組むということもあり、セミナーは大盛況だった



小倉社長

バック・エックスは6月21日、東京都台東区の「TKP上野ビジネスセンター」で人材育成無料セミナー「人が辞めない、人が育つ、アドラー式1on1ミーティングとは」を開催。ホール企業の経営幹部、人事担当者、ホール管理者ら、139人が参加した。

「1on1ミーティング」とは、上司と部下による週1、もしくは隔週1回程度の定期的な1対1の対話（30〜45分）のこと。社員同士のつながりや絆の向上を目的とし、その結果、離職予防や意欲の向上、問題の早期発見・対処などに期待できる。多くのIT企業が集まるアメリカのシリコンバレーで広がった人材育成手法で、日本でもヤフーやグリー、日清食品などが導入している。

師として登壇。教育や子育てに役立つ心理学を創始した心理学者、アドラー氏の考え方に基づいた「1on1ミーティング」の活用方法を伝授した。

小倉社長はパチンコ業界に関して、「国内の求人倍率が高い現状を踏まえると、採用にコストと時間をかけて獲得した人材がどんどん流出してしまうのは、かなりの痛手。コップに水を注ぐ前に、コップの穴をふさぐ施策が求められている」と強調。

その上で、働く人の価値観が多様化し、コミュニケーションが減少している今だからこそ、「1on1ミーティング」が離職予防の切り札になると熱弁。

ミーティングの内容について、「部下が9割話し、上司は合意の手を入れるというスタイルが基本。相手の話を遮らず、部下から社内での問題点や相談があつたとしても、その場で解決する必要はない。上司としてではなく、一人の仲間として接する必要がある」と説明した。

セミナーの後半では、実践編として、「1on1ミーティング」の良い例と悪い例を小倉社長とバック・エックスの関連会社・ピー・ワークプロの大木祐司



「1on1ミーティング」を体験する参加者

取締役が実演。

悪い例では、日常業務の話が多く、上司が監督者としてティーチングをしてしまつていと解説。ミーティング中は楽しい雰囲気を出し、中長期的な話をするのが重要とした。

その後、参加者同士で、良い例、悪い例ともにロールプレイングしてもらい、両者の違いなどをフィードバックする時間が設けられた。

参加者からは、「自分の足りていない部分が浮き彫りになった」「まずは経営陣から体験が必要だと感じた」「自部署で早速取り入れて、導入タイミンを检讨したい」「県遊協などの組合でも講義してほしい」などの声が上がった。